

会報  
第17号  
2014年2月



赤煉瓦倶楽部半田会報  
発行人:長谷川寛子会長  
会報第17号編集担当:山口貴司  
〒475-0928 半田市桐ヶ丘3-11-13  
(建築工房副風庵)  
TEL/FAX:0569-21-5959  
http://www.akarenga-handa.jp  
E-mail:redbrickhanda@yahoo.co.jp

■ NEWS 01

甦れ！ 半田赤レンガ建物！！

改修直前大公開！！

平成27年度より、赤レンガ建物は、倶楽部念願の常時公開が実現します。それに先立ち26年度には建物改修工事を行いますので、10月5日・6日の2日間『改修直前大公開』を開催しました。

思えば平成14年に初めて赤レンガ建物を公開してから12年。私たちは万感の思いで当日を迎えました。様々な企画で建物の公開を続け、半田赤レンガ建物の魅力とその重要性を愛知県内は言うまでもなく、全国へと広めてきました。その集大成となる今回の『大公開』は、ミツカン様所蔵の赤レンガ建物の棟札の展示などでグレードアップしたお宝展、これまでの公開事業の足跡と倶楽部活動のあゆみなどを解りやすくパネル展示し、大勢の来場者に半田赤レンガ建物をさらに知っていただきました。

また、建物を初公開した時の、記憶に残る企画「ものづくり工房2013」を開催し、中・高・大学生を含め、8団体によるガラス・泥だんご・木工体験などで子供から大人まで楽しんで頂きました。更にはグルメコーナー・カブトビール限定販売などなどは開場時間前から長蛇の列で、しばらくの間見納めとなる赤レンガ建物を大いに満喫していただきました。



ものづくり工房2013

NEWS INDEX

- 第22回赤煉瓦ネットワーク全国大会(関門大会)
- 先進事例見学会～近江八幡編～
- 新春合宿

見納め公開終了後には「締めめの会」を行い、開催にご協力いただいたボランティア、各出展者等の多くのご協力者頂いたみなさんと共に、未来への希望を込めた特大ケーキで乾杯し、最後には馬場理事長より「半田赤レンガ建物は、永遠に不滅です。」の言葉で締めくくられました。

いよいよこれからが、半田赤レンガ建物と当倶楽部の第3ステージのスタートとなります。

甦れ！！半田赤レンガ建物！ ～未来への希望を込めて～  
(平岡記)



特大ケーキ



ビール売り場の大行列

## 先進事例見学会～近江八幡～

今年度の先進事例見学会は、バスで近江八幡へ行きました。目的は、かつて煉瓦を焼いていたホフマン窯の見学です。また、戦前に活躍した建築家ヴォーリーズの近代建築の保存運動をしている「一粒の会」の話を「旧近江八幡郵便局」（作品の一つ）で聞き、「近江兄弟社学園」の見学をしました。昼食は酒蔵を改装したレストランでいただき、街並みやクラブハリエ（有名洋菓子店）などの店を見てきました。

〈ホフマン窯〉

大変立派な煙突でした。中のトンネルを見学したとき、ここで昔レンガを焼いていたのかと思うと歴史を感じました。焼成技術継承のため、窯の中で積まれたまま動かされていない煉瓦を見たときも感慨深かったです。見学者を受け入れる施設としては、同じ煉

瓦の建造物でも、半田の赤レンガは恵まれた造りになっていると思いました。

↑外観 焼成窯のトンネル↓

〈ヴォーリーズ建築保存再生運動 一粒の会〉

説明をしてくださった方が、本当にヴォーリーズ建築の素晴らしさを伝えていきたいのだという想いがよく伝わって、私自身もヴォーリーズ建築の素晴らしさに共感しました。NPO 法人の会員の年会費が1万円というのは高くて驚きました。もし半田の赤煉瓦倶楽部の年会費が1万円だったら、私は初年度は赤レンガの良さや価値があまり分からなかったので、会員にならなかった可能性が高いなと思い



ました。NPO 法人のメリットは社会的信用が高まることという説明には納得しました。



〈近江八幡の街並みについて〉

情緒あふれる歴史的建造物と、古民家を改装して営業していると思われる現代のお洒落なカフェやショップなどがうまく融合し、若い人も惹きつける街並みになっていたと思います。

〈バウムクーヘンのお店（クラブハリエ）〉

すごい行列でびっくりしました。行列に並んでいる人たちは女性が多かったのですが、雰囲気、服装、聞こえてきた会話などから、半田の赤レンガに訪れる人達とは違うタイプの人達が多いと思いました。女性にも色々な人はいますが、グルメやスイーツの情報には敏感な人は多く、そのためなら一時間行列に並んでも惜しいと思わない人もたく



さんいます。また女性同士の間で最も多く話題になります。このような「話題になるショップ」という集客材料を半田の赤レンガにも取り込むことができれば、今までは赤レンガに興味がなかった人達も確実に赤レンガ建物を訪れるだろうし、そのショップを呼び込んだ半田市の観光全体のイメージもより良くなり、トレンドに敏感な人からも注目を集められると思いました。（沢田記）



## ■NEWS 03

### 第22回全国大会(関門大会)

傘のいらぬいやや雨まじりの天候でしたが、半田からは馬場理事長はじめ、総勢8名の大型参加となりました。

道中、酒による脱落者は一人もなく開会式に参加し、大会スケジュールに沿って進行されました。まず、NPO 法人門司赤煉瓦倶楽部の笠橋理事長から、門司と下関との合同大会の成功について挨拶があり、博物館明治村の鈴木館長の基調講演『日本人は、なぜ赤煉瓦に惹かれるのか』というテーマで、興味深く建物紹介されました。次に当倶楽部の馬場理事長が半田レンガ建物の保存活用についてパワーポイントを使って発表し、会場全体が良き成功事例として盛り上がりました。これが後の建物番付再編成に寄与し、前回の関協から大関に昇進することができました。また、九州大学の藤原恵洋教授司会進行による建物番付発表では、九州内にある、重文、国史クラスの建物紹介があり、当日最大のイベント大懇親会で多いに盛り上がる話題となりました。



山口銀行本店

さて、懇親会では、ご当地下関のふぐ、新鮮な魚介類、焼きカレーなどのおもてなし料理が提供され、美味しい酒

と旨い料理に酔いしれ、好評ぶぐの唐揚げは、開始早々5分でなくなってしまいました。

次回2014年の全国大会は富岡大会、翌年は敦賀大会です。そして2016年の全国大会に、半田は立候補しました。工事が計画通りに終了できれば、実現できます。そのため、倶楽部員、市の関係者の方々、工事関係者のかたにご協力をお願いしたいのであります。今、半田市は全国から注目されています。全倶楽部員ですばらしい全国大会をつくりましょう！おもてなし！（小林記）



英国領事館（改修工事中） 上下2枚



## ■NEWS 04 2013年新春合宿

1月27日、恒例の新春合宿が成岩公民館で開催されました。参加者は24名で昨年よりは6名増でした。冒頭に長谷川会長、馬場理事長、ご来賓の竹内企画課長より挨拶があり、本題へ入りました。全国大会などの報告の後、企画課より2015年春の常時公開化に向け市の公式検討委員会を進めている旨の報告がありました。しばらく休憩の後、本日の主議題と位置付けている2013年の事業計画、とりわけ我々の手による特別公開としてはファイナルとなる第

12回特別公開のテーマについて活発に検討がなされました。結果、昨年初公開して大好評だった「2階の再公開」と、特別展の「創建時からこれまでの建物の変遷」のパネル展示が方向づけられました。開始からここまで4時間、第1部が終了しました。第2部の新年交流会は宮原副理事長挨拶、竹内企画課長乾杯で開始。夢にまで見た常時公開が目と鼻の先という状況の中、老若を忘れ、夢を追いかける少年たちのようにあちこちで熱い議論が交わされていました。このままではお泊りになってしまう？宴たけなわではありませんでしたが、永田副理事長の中締めにて閉会といたしました。皆さんお疲れ様でした。（馬場記）

